



たつ 辰年によせて～りゅう座の話

2024年の干支は辰年にあたっています。辰は竜の別名とされています。それは、方角の一つであった辰に対して、アイコンとして竜を当てはめたことに起因しているのだそうです。それはともかく、竜は東洋でも西洋でも想像上の生き物であるにもかかわらず、ほぼ同じような姿をしています。(不思議ですね。)

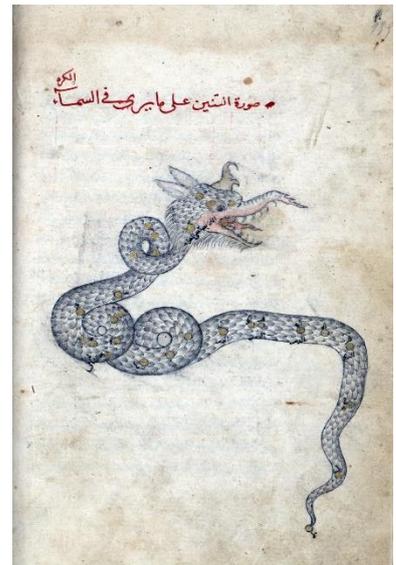
星座のふるさとであるバビロニアでは、今のりゅう座にあたる部分は農具の一種である鋤に見立てられました。「く」の字のように折れ曲がって、おおぐま座、こぐま座にあたる2台の車(四輪の馬車のような形)を区切っています。それがギリシャにつたわって、2匹の熊と1匹の竜へと変化しました。現在、プラネタリウムで見られる星座の形とほぼ同じです。

余談ですが、ウクライナでは今でもおおぐま座とこぐま座を荷車、りゅう座を鋤のように見立てています。バビロニアの見方が今に伝わっているのでしょう。

りゅう座は、あまり明るい星のない目立たない星座です。りゅう座の α 星トゥバーンは4等星ですが、3千年前には北極星だったということで有名です。「トゥバーン」とは「蛇の頭」のような意味ですが、ぜんぜん竜の頭のところにはありません。

りゅう座は1年に一度注目を浴びることがあります。それは1月4日に極大を迎える「しぶんぎ座流星群」の放射点があるからです。そのため、かつては「りゅう座流星群」とも呼ばれました。また、13年に一度出現する「ジャコビニ流星群」の放射点もりゅう座にあります。こちらは「10月のりゅう座流星群」とも言われます。今年が、竜のように飛躍できる年であることを願いましょう。

2024年1月7日記 (解説員：田部一志)



アラビアの天文学者アルスーフィの星図に描かれたりゅう座。